

令和6年度第1回三条市幼児教育推進会議録（概要）	
日 時	令和6年5月29日（水）14：00～15：15
会 場	市役所栄庁舎2階 201会議室
出席者	委 員：中野会長、与斉副会長、小池委員、松尾委員、宮嶋委員、 山田委員、阿久津委員、佐藤委員、長谷川委員 茂野委員 事 務 局：平岡教育部長 子育て支援課 小林課長、相場子ども家庭サポートセンター長、 伊藤主任、小林主任、竹中幼保小連携推進員 学校教育課 相田課長 報道機関：なし 傍 聴 者：なし
会議内容	
	1 開 会 午後2時開会 2 挨 拶 平岡教育部長挨拶 3 各委員及び事務局自己紹介 【出席者数の確認】 【資料確認】 4 会長・副会長の選任について 会長：中野委員 副会長：与斉委員 5 議 題 三条市幼児教育推進プラン（第3次）令和5年度 取組実施状況について（説明） 【三条市幼児教育推進プラン（第3次）について説明】 （別紙参考資料に基づき説明） 相場セン ター長 小林課長 【令和5年度幼児教育推進プラン実施状況について説明】 （資料1、2に基づき説明） 【質疑・応答】 〈幼保小連携の育ちのつながりを意識した関わりについて〉 「安心わくわくプログラム」、「スタートモデルカリキュラム」の活用について、幼児施設では評価が低いように見えるが、スタートカリキュラム等は引継ぎやすいと考えられる。一方でそれぞれの活用がルーティーン化していくほど、その活用の目的や意義が伝わらなくなっていることが課題である。
中野会長	

	平成 22 年から取り組んできた幼保小連携の大切さの意味や意義、「何のため」にするのかを絶えず伝え継続していく必要がある。 〈第 3 次プランの教育・保育の計画実施評価・改善サイクルについて〉 日々の保育を振り返りながら、最終的にはカリキュラムに落とし込むと思うが、カリキュラムはハードルが高いように感じる。 毎年改善していかなくとも、PDCA の P(計画) の段階で何年サイクルで評価・改善でもよいと思う。毎年計画の項目をすべて一巡(評価・改善)していくのではなく、計画的に 5 年かけて一巡することでもよい。カリキュラムの改善手法や振り返り方もただ振り返るのではなく、時間を確保して、意味や意義があった上でツール(手法)を伝えていくことや好事例の提示なども大切である。
平岡部長	何のためが大事であるということ、幼保小を捉えての事例であったが新プランそのものが全て一貫して「何のため」を改めて振り返る指針的なプランとして策定した。今後ともその意識を大切に進めていきたい。 プランの推進方策については、項目が多いが、行動指針に沿った上で説明の中でもアンケートとして数値化している。項目は、プランの留意ポイントとして、保育が実践できているかアンケートで課している。各保育者、各施設長には、60～70 項目を年 1 回改めて自分自身の保育を振り返り実践できているかどうか、できていなければどうするべきかを考える機会としたいため、プラン掲載のとおり進めていきたい。
松尾委員	施設長と担任保育士のアンケート結果の違いに驚いた。特に運動遊びの部分で、できていると思っていたところで担任はできていないと結果が出ている。運動遊びのプログラムを作成したのが何のためかという目的が分からなくて、視点の相違を感じた。例えば砂遊びでしゃがんでいる場面では、運動遊びでは「しゃがむと」という足腰を使うと捉えられるようなことを今一度職員に「何のため」という捉え方を伝えていくことで結果が変わるかと思う。
平岡部長	施設長と保育者の目的意識に差があると推測される。改めてこの結果を各園に配付し、園で更に振り返りを行ってもらうことが、より質の高い保育につながっていくものと捉えている。
中野会長	各園に配付されることが大事である。アンケートは自己の評価の集積にすぎない、ただマイナスをプラスにではなく、ギャップのあるところを話し合う機会として活用してほしい。

与斉副会長	地域との交流、園庭の開放についてアンケートの結果はさて置き、これが大事であることは承知している。一方で様々な事件があり、安全は十分確保していかなければならない。登園、降園時以外は外部の人が立ち入らないようにせざるを得ない。どのようにしたら地域の人との交流の機会を確保しつつ子ども達や職員の安全が図れるか苦慮する。
中野会長	子育て支援が始まってから、地域への園解放が広まっていった。残念ながら事件が起こることで、施設のセキュリティ強化が行われる。合わせてコロナ禍の影響も大きい。昨年5類に移行してからは様子を見ながらの現状であった結果である。地域との交流で、地域の人から来てもらう以外に、園から地域の行事に参加する等、出向くような新しい交流が始まることも考えられる。
与斉副会長	赤い羽募金等で子ども達が地域に出向いたことはある。園庭を全くオープンにしてしまうことはリスクを考えると躊躇するところである。
小池委員	自園は、自然豊かで運動遊び等、子どもにとって大変環境がよい。近くに包括支援センターがあり、お年寄りとの交流もある。過疎化、少子化が進んでいるが、地域とのコミュニケーションを大事にしていきたい。
阿久津委員	3歳と1歳の子どもが園に通っているが、お迎えの際は園庭で保護者同士の関わりや、子ども同士の遊びがよいコミュニケーションになっている。
長谷川委員	延長保育をしているので夕方に園の駐車場を利用する。その際関係のない車が止まっていたりすると、安全設定はあるべきと思っている。
佐藤委員	自己評価によるアンケートであり、質をもって保育にあたっているところは評価が高いと思うが、施設長との差があるというところで、施設長や主任等が、本当にできているのかという評価の仕組みとなっているのか疑問をもった。
平岡部長	施設長が園ではできているという評価に対し、1人1人の保育者ができているのに自信がなくあまりできていないという主観が入ってしまっている。アンケート結果を基に更なる振り返りを行ってもらいながら、本当にできていれば、施設長から職員を褒めてほしいし、もしできていないなら、目的意識をもつことの場を改めて園内で設けてほしい。
中野会長	評価であり評定ではない。あくまでもアンケート結果であることを含んでいただきたい。

茂野委員	発達支援について、就学時健診の結果により、就学相談や医療受診等、就学まで慌ただしい事例があるが、もう少し早めに発達障害のことが分かるよう対応できるとよい。
小林課長	三条市では、就学時健診前に、全ての年中児を対象に年中児発達参観を行っている。子ども一人一人の成長の姿や伸ばしたい力を確認するための機会である。その中で支援が必要であるとか、経過観察をするとかの気付きも様々である。早めに的確な対応ができるように、日々携わる職員の資質を上げ、一人一人が専門的な知識をもって保育にあたっていく必要がある。子ども達一人一人の個性や違いを大切に、明るく楽しい小学校生活を送ることができるように関係機関で様々な取り組みを進めていく。
中野会長	年中時発達参観は、保護者と保育者と第三者でお互いに子ども達の様子を見合い、発達を継続的に見守っていこうとする機会であることをご理解いただきたい。
山田委員	「安心わくわくプログラム」、「スタートモデルカリキュラム」の内容はよい。実践例が多く掲載されており、そのまま活用できる。保育者等の意識を上げるために、各施設の好事例を公募してみてもよいのではないかな。
宮嶋委員	幼保小の接続について関心をもっている。小学校は幼保とも、中学校ともつながりでは重要である。忙しい中ではあるが何かできることをしていくことが大事である。資料の幼保小連携の今後必要な対応のところで、4月中にという強調が感じられるが、その具体についてお聞きしたい。
平岡部長	幼保から小学校へ、子ども達にとっての環境が一番変化するのは4月である。幼保小連携の「何のため」は、4月、5月をスムーズに心穏やかに小学校に進ませてあげることが狙いとしている。年長担任と1年生担任が交流をしつつ意思疎通を図り4月を迎えようとしている。しかし人事異動等で担任が代わる等の事情もある中で、どうカバーしていくかを課題とした。
中野会長	幼児教育と学校教育それぞれの文化を知ってもらうために「安心わくわくプログラム」を策定した。市で保育者と低学年の先生が一緒に参加できるような講座や研修を設けてもよいと思う。
中野会長	これで本日の議題は終了する。

小林課長	6 その他 本日は、様々な御意見をいただき感謝申し上げます。今回の御意見を参考にし、今年度の事業を実施していきたい。また、今後ご審議いただくことがあれば、会議の開催について、御案内をさせていただく。
中野会長	今後の会議の開催については、必要に応じて、事務局から連絡があるということで、よろしくお願いしたい。 本日予定していた内容は全て終了する。 以上で、第1回三条市幼児教育推進会議を閉会する。 7 閉 会 午後3時15分閉会